

ボランティアガイドユニホーム

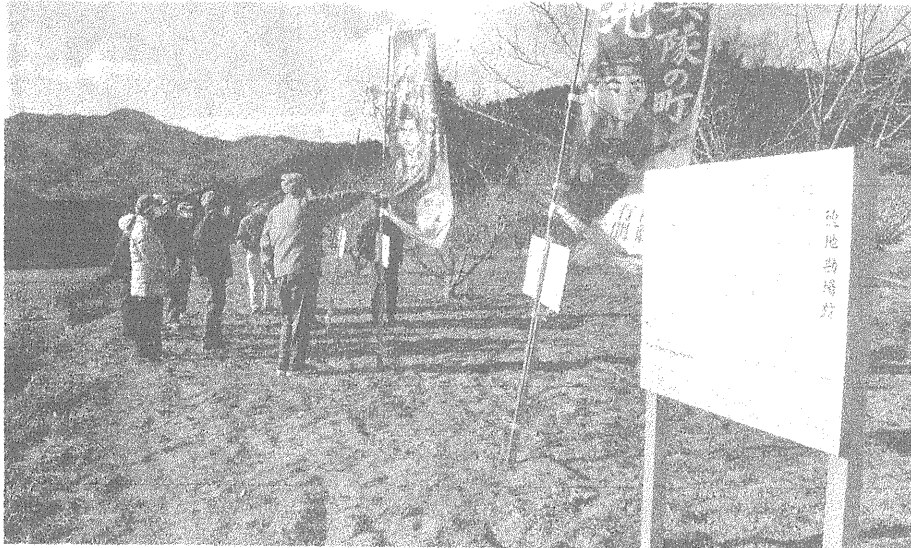


徳地中学校でのコスプレ

議題 1 「徳地の隊中様」顕彰検討委員会報告

これまでに5回の委員会を開催いたしました。そこでは、委員全員がふるりの歴史をモニュメント(碑)にして残していくことで意見がまとまりました。

また、これまでの会議の状況等をご理解頂いた放談の会のメンバーから、モニュメント設置の土地の提供やモニュメントに使用する碑石の提供を受けました。(写真参照) 碑文については、**徳地隊中様烈士殉難の碑**(アンケートの結果から)が推挙されました。



顕彰モニュメント建立候補地の徳地勘場跡で意見交換する委員＝
山口市徳地堀

徳地の歴史を後世に 顕彰モニュメント建立へ 検討委

山口市徳地の住民でつくる徳地幕末維新歴史放談の会(山田文雄会長)のプロジェクトチーム「徳地の隊中様顕彰検討委員会」は、同市徳地堀の徳地地域交流センターで会合を開き、「徳地の隊中様」を念頭に古里の歴史を後世に伝えるモニュメント(石碑)を建立する方針を確認した。

幕末に諸隊の奇兵隊・鷹鷹隊が転陣してきた徳地は多くの農民兵を輩出し、四境戦争や戊辰戦争を経て明治維新の大業を成し遂げる一方、維新直後の脱隊騒動では多数の反乱兵を出し、処刑されるなどした歴史がある。

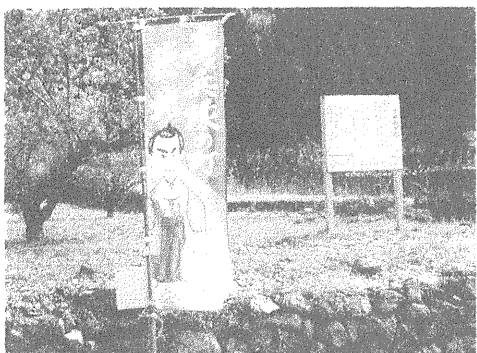
同放談の会は反逆者として歴史に埋もれている徳地の隊中様(隊士の敬愛呼称)

に光を当て、再評価しようと活動を開始。明治維新150年の2018年、徳地の隊中様供養祭を開いた。地域住民に周知を図るため奇兵隊の徳地転陣の歴史を掘り起こす活動も進め、「徳地の奇兵隊」として観光アピールしている。

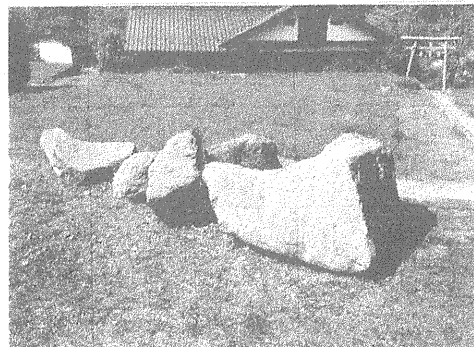
昨年、放談の会の中に隊中様顕彰検討委員会を設置。これまでの取り組みをモニュメントにして残す提案が出た。

今回の検討委では会員約60人に実施したアンケートで建立に異論がなかったことを伝えた。委員から候補地として徳地宰判の「徳地勘場跡(代官所)」を想定し、既に地権者から設置の了解を取り付けたという報告もあった。徳地勘場跡まで移動し、設置場所として考えられるポイントを探りながら意見交換した。

山田会長は「維新の先駆けとなった徳地の歴史をモニュメント化できれば」と話した。



建立予定地



モニュメント用岩石

「隊中様、疫病から守って」

山口・平川 30人が藤山佐熊慰霊



藤山佐熊の墓に参拝する人たち＝山口市

明治維新直後の脱隊騒動で戦死した幕末諸隊の振武隊隊士、藤山佐熊を慰霊する「平川の隊中様まつり」が山口市平川の鐘ヶ峠にある藤山の墓であった。峠の麓の集落でつくる隊中様奉賛会（松永範彦会長）が開いた。

脱隊騒動は山口藩政府の常備軍編制に伴って解雇された農民兵らによる反乱事件。戊辰戦争から凱旋した奇兵隊など諸隊の隊士を待っていた非情な処遇に憤った隊士は1870（明治3）年、実力行使に出たが藩政府の常備軍に鎮圧された。藤山も反乱側の一人で、同年2月9日の鐘ヶ峠の交戦で戦死した。

駐屯中に藤山ら隊士と交流のあった平川の住民たちは敬意を込めて隊中様と呼

んでおり、若き藤山の死を哀れんで峠の8合目付近に墓を立てて弔った。墓参りするに病気が治るといって民間信仰がはやり、藩政府は墓参禁止令を出した。麓の住民はいつの間にか、藤山の命日に隊中様まつりを開いて慰霊を続けるようになった。

近年は暖かくなる4月の月命日に開いており、今年も約30人の一般参列者が麓から墓所まで登った。地元恒言神社の宮成恵臣宮司によって神事が執り行われ、奉賛会役員九重公義さん（83）が代表で玉串を奉納してかしわ手を打った。藤山の出身地の同市阿東から阿東地域づくり協議会の吉岡主税副会長、徳地地域で「徳地の隊中様」を慰霊する徳地幕末維新歴史放談会の山田文雄会長らも参列し墓前に手を合わせた。松永会長（75）は謝辞の中で「隊中様が新型コロナウイルスの疫病から参拝者を守ってくれると思う」と墓参の御利益を話した。

山口新聞

R3. 4/14